

松田町立寄小学校

研究テーマ：「つながり」を深める子をめざして～社会科・生活科の授業づくり～

1 実践の目的

これまで国語科を中心に①主体的に「つながる」子の育成 ②対話的に「つながる」子の育成 ③深い学びに「つながる」子の育成 の3つの「つながり」を深める子の育成を図ってきた。今年度はさらに他教科へ広げ、社会科・生活科に教科を変えて研究した。

2 実践の内容

(1) 学びアンケートの実施

学期ごとに「学びアンケート」を児童に実施した。その中で「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問について、否定的な回答が目立った。特に、3～6年生に絞ると、12人中4名が否定的な回答をしている。これは、本校の3つの「つながり」の中の「深い学びに『つながる』」に関わる内容である。

これらのことから、今後は「深い学びに『つながる』」ための手立てを中心に研究を進めていくことが課題である。

(2) 意見交換のしやすい環境づくり

本校ではGoogle Classroomを活用して授業に関する連絡や相談を行っている。研究授業に関する連絡や日頃の授業の悩み、出張で学んだことの復命などを誰でも投稿できる環境を整えたことで、自由に交流することができた。

授業提案を行う際は、本時に限らず単元の授業予定を周知して時間の都合がつく職

員が参観し、意見を交わした。それにより、授業に関する話が放課後の職員室内で活発に行われるようになった。本時だけを参観するのではなく、単元を通して「みんなで授業を創る」という意識が高まった。

今日から校内研授業単元「町のうつりかわり」に入ります。

4時間目です、よければご参観ください。

今日の教師が考える主な流れは、

- ①歩み＝進化・レベルアップ・発展
では、寄中の閉校は？
- ②そもそもなんで閉校？一人数が減ったから
- ③でも、1969年に閉校案が出ている
人が多いのなんで？
- ④これって、進化・レベルアップ・発展？
- ⑤どうして寄中学校は閉校したのだろう。
- ⑥ふりかえり

という感じです。子どもの考えからされる可能性もありますが...

よろしくお願いします！

🗨️ クラスのコメント1件

今日はありがとうございました。

<授業予告の投稿とコメント>

3 実践の成果と課題

(1) 生活科

①地域とのつながり

生活科は自分と対象（身近な人々・社会・自然など）がどのように関わるかが大切であり、その過程で児童の見方・考え方が養われ、気づきを豊かにする。今年度は、1年生は寄幼稚園の園児とのつながりを、2年生は町の広報担当者や町探検で関わる人とのつながりを単元構成に組み込む工夫を行ったことで、児童の思いや願いを引き出す手立てとなった。このように、自分と対象が身近で、深く関わることで、児童は「私たちの住む地域には、こんなに素敵なおところがある」「小学校で学習して、いろいろなことが

できるようになった」という実感をもつことができた。

②場づくりの工夫

児童の思いや願いをさらに生かすために、場づくりについても工夫があった。体験や活動を重視する生活科では、場づくりは重要である。児童が主体的に活動することができるよう、幼稚園教育をヒントに、安全に配慮しながら必要な道具等をどこに配置すべきか検討することができた。

③教師の関わり方

児童の思いや願いを生かすためには、教師の関わり方が重要となる。関わりすぎると児童の思いや願いを阻害してしまい、引きすぎると児童の活動へのわくわく感が薄れがちになると感じられた。本校の小規模校であるという特性を踏まえると、教師がもう一人の児童として一緒に活動を楽しみ、児童とともに喜びを分かち合えるような関わり方が求められるだろう。

(2) 社会科

①資料提示と掲示物の活用

社会科の授業を検討するうえで、難しさを感じたのは資料の提示の仕方である。児童の思いや願いを生かして主体的な学びを行うならば、資料は児童自ら探し出し、読み取り、関連付けていくことが求められるだろう。しかし、児童の実態を踏まえると、そうした活動をするための力が十分に育っていなかったことから「どんな資料が欲しい?」と尋ねたり、複数の資料を提示して選び取らせたり、資料を精選したりした。それにより、少しずつ必要な資料を考えて適切に読み取って活用する姿が見られるようになった。また、授業で活用した資料を教室の

掲示物として活用したり、授業の流れを模造紙などにまとめて掲示したりしたことで、児童は既習事項を生かして考えることができるようになった。

今後も資料提示と掲示物の活用については、検討を重ねてより効果的に使うことができるよう模索していきたい。

②地域素材の教材化

地域素材を社会科の指導事項と結び付けて教材化し、授業構成を練ることは児童に思いや願いを強く抱かせ、主体的な学習のための手立てとなることが分かった。地域素材と社会科を結びつけるという視点で授業を検討すると、寄地区にはそうした素材が数多くあることに気付くことができた。

素材を集めて教材化するためには、教師が実際にその場所を訪れ、取材をしたり写真を撮ったりする必要がある。限りある時間の中で、教材化する難しさも感じた1年だった。今後は地域素材を教材化したものを次年度に引き継ぐようにし、寄小学校の財産として残していくことに努めたい。

4 今後の展開

小規模校の特徴を生かした発展的な授業づくりにも挑戦したい。少人数での授業は活動の幅を広げやすく、校外学習を盛んに行うことやグループの話し合い活動が学級全体の考えとなることからテンポよい授業展開を組むことができるという特徴がある。

また少人数のために話し合いの深まりが乏しいという点では、異学年と合同の授業を行ったり、児童に時間を委ねるなど柔軟な授業の展開を行ったりすることで、カバーできると考える。研究の枠を超えて、職員同士で授業づくりについて意見を交わし、より質の高い授業をめざしていきたい。